

# 浴衣地の布幅と体型・体格との相関関係に ついての考察

## A Study of the Interrelationship between the Width of Yukata Cloth and the Various Shapes of Bodies

青海邦子 増田依子<sup>\*</sup>  
SEIKAI Kuniko MASUDA Yoriko

西 八重美 阿彌伸子  
NISHI Yaemi AMI Nobuko

### 1. はじめに

浴衣という語源は、正徳3年(1713年)刊の和漢三才図会に「浴衣、内衣、和名由加太比良、俗日＝由加太－浴帷子訓」とあるように「湯帷子」の略称<sup>1)</sup>である。湯帷子は、古くは入浴をするための衣(服)として用いた。その後、衣(服)を纏わず裸体で入浴するようになったことから、湯帷子は江戸時代には入浴後に着用する着物をさすようになった<sup>2)</sup>。

すなわち湯上がり後の着物「浴衣」として着用されるようになった。さらに江戸時代の中期の末には、木綿の単衣という実用性によって、夏の着物の代表として定着することになった。

このような生い立ちから浴衣は、従来白地に藍染が主体をなすなど単色使いが多く、夏の外着・内着や寝間着として用いられる事が多かった。

しかし、最近では、色は多色使いが多く華やかさを増し、柄においても和服特有のものから、洋服のデザイナーがデザインした洋服的なものまで種類が豊富になった。したがって若い世代の浴衣に対する関心は大いに高まり、1989年頃から20才前後の若い女性による浴衣ブームが起こり<sup>3)</sup>、各地で浴衣のファッションショーが催され現在では、夏祭りや花火見物等外出時のおしゃれ着として着用されるようになった。

素材については、従来木綿地のために皺になりやすく取り扱いが面倒であると敬遠されていたが、おしゃれ着感覚で着る浴衣に、最近では形態安定加工を施すことにより、皺になりにくく、洗濯も簡単にでき、手入れは簡便化されている。

---

<sup>\*</sup>大阪女子学園短期大学

寸法については、和服は多少の体型差があってもそれは着付けによって融通のきく便利な衣服であるが、年々向上する体型・体格の変化に対しては、着心地の点からみると寸法は体型・体格から割り出して決めるのが望ましい。増田ら<sup>4)</sup>は衿寸法の変化について報告しているが、本報では体型・体格と浴衣地の布幅との相関関係を被服構成上から検討した。

## 2 調査の概要

### 2・1 調査の対象者

女子短期大学学生(19～20才)

有効数(315名)

### 2・2 調査の時期

1994年5月および1995年7月

### 2・3 調査の方法

被験者の身体測定(身長、衿、胸囲、腰囲)を行った。衿の測定は被験者の第7頸椎点から肩先点を通して手首点(尺骨頭中点)までを、上肢側方45度挙上した姿勢で計測した。

### 2・4 データ処理の方法

統計解析には京都大学大型計算機センターのFUJITSU、M1800/30システムに登録されている統計ソフトウェアSASを利用し、カイ2乗( $\chi^2$ )検定や相関係数ならびに回帰分析などの統計処理およびヒストグラフ、ブロック図などの図形処理により検討を行った。

## 3 結果および考察

### 3・1 身長、衿、胸囲、腰囲を採寸した記述集計

浴衣を美しく着心地よく着るためには、着用する人の体型・体格にあった寸法が必要である。なかでも浴衣の丈寸法と巾寸法のほとんどの部分を定める基になる身長、衿、腰囲の採寸が重要とされている。

被験者315名の身長、衿、胸囲、腰囲を採寸し、平均値、標準偏差等を算出した結果を表1に示す。

表1によれば身長は平均158.3cmで標準偏差は4.79であるのに対して衿は平均66.7cmで

標準偏差は3.54であり、身長よりもばらつきが少ないことが認められた。胸囲は平均82.9cmで標準偏差は4.30であり、腰囲は平均89.5cmで標準偏差は4.68となっている。

次に19才の女子の体力、運動能力調査報告書<sup>5)</sup>の年次統計表の身長、胸囲を図1に示す

図1からもわかるように、身長、胸囲については明治、大正、昭和、そして平成へと時代と共に、体位の大型化

表1 身長・衿・腰囲・胸囲

項目	人数	平均値	偏差
身長	315	158.3	4.79
衿	315	66.7	3.54
腰囲	315	89.5	4.68
胸囲	315	82.9	4.30

浴衣地の布幅と体型・体格の相関関係についての考察

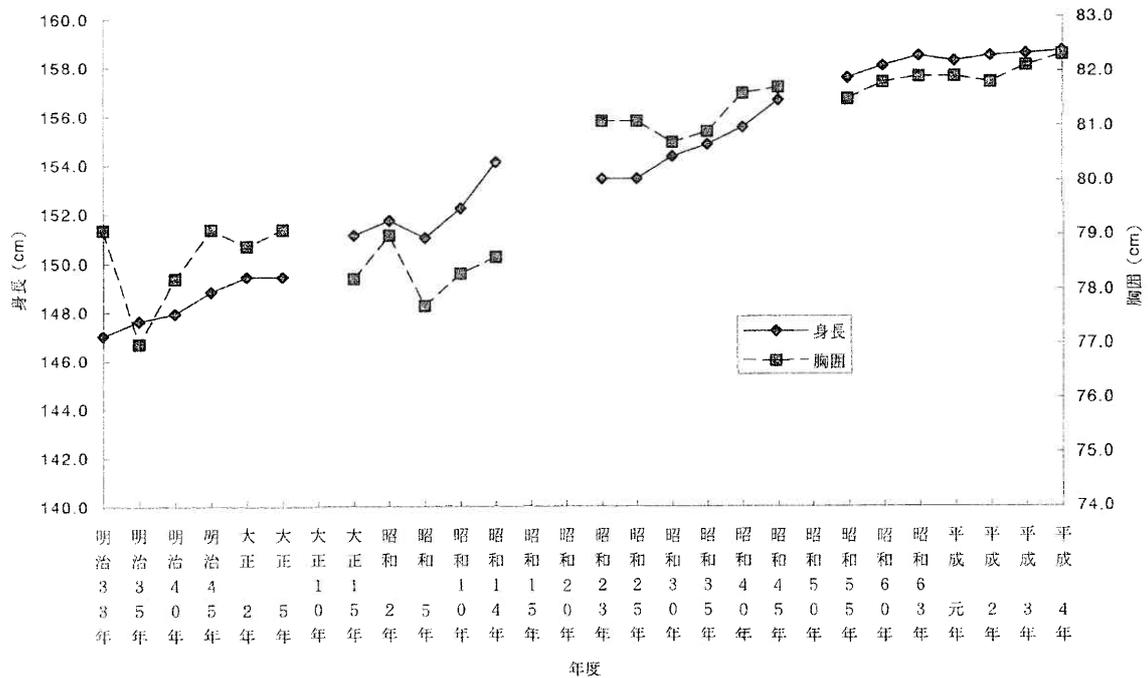


図1 年度別発育状況

を示している。資料<sup>5)</sup>の平成4年度発表の身長は平均158.3cmとなっており、本調査結果と同一傾向を示した。

胸囲においても同様の結果が得られた。

ワコールの人間科学研究所<sup>6)</sup>での1994年度の19歳女子身長は平均値は159.1cm、胸囲の平均82.5cm、腰囲の平均は89.1cmとなり、今回の調査とほぼ同様の結果となった。

3・2 計測部位の寸法と着物の寸法との関連

被験者の寸法より割り出した各項目の結果は次の通りである。

和服寸法百科<sup>7)</sup>の仕立て上がり寸法割り出し一覧表を参考に身長が低い者151cm以下、身長が普通の者152～159cm、身長が高い者160cm以上と3区分した頻度分布の結果を図2

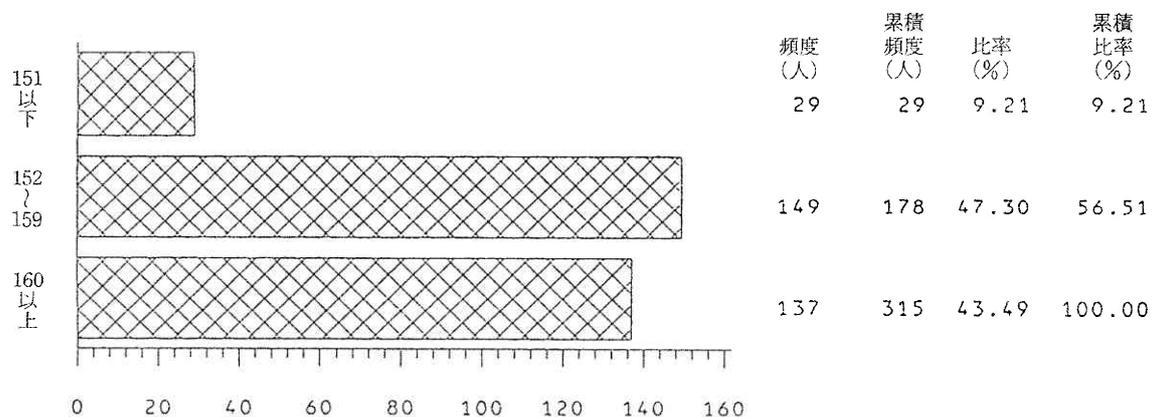


図2 身長は頻度区分

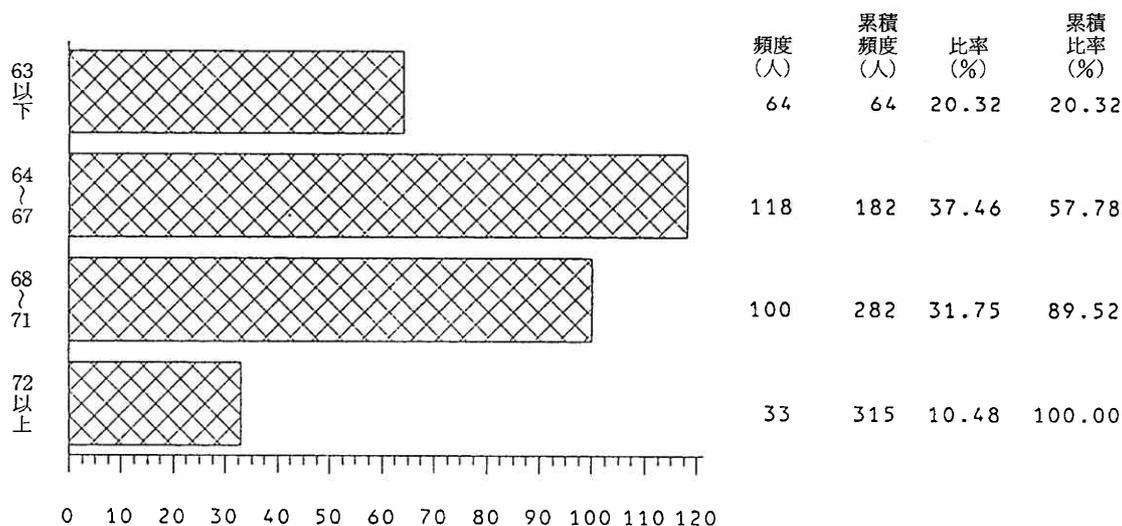


図3 襟の頻度区分

にヒストグラフで示す。

図によれば、身長が普通(152~159cm)の者が149名(47.3%)と多く、次いで身長が高い(160cm以上)の者が137名(43.5%)、身長が低い(151cm以下)の者が29人(9.2%)の順になっている。

さらに前述の表により襟丈63cm以下、64~67cm、68~71cm、72cm以上と4区分した頻度分布の結果を図3にヒストグラフで示す。

図によれば、襟丈が64~67cmの者が118名(37.5%)と多く、次いで襟丈が68~71cmの者が100名(31.8%)、襟丈が63以下の者が64名(20.3%)、襟丈が72cm以上の者が33名(10.5%)となっている。

表2 肩巾・袖巾寸法 (並巾36cm)

襟	肩巾	袖巾	袖巾と肩巾の差 (cm)
58	28	30	2
59	28.5	30.5	2
60	29	31	2
61	29.5	31.5	2
62	30	32	2
63	31	32	1
64	31	33	2
65	32	33	1
66	33	33	0
67	33.5	33.5	0

従来の浴衣地(着尺地)は通常、並巾36cm、総丈約11~12mを一反としている。

つづいて、表2<sup>8)</sup>は並巾36cmにおけるの肩巾と袖巾(襟丈)の標準寸法表である。並巾36cmにおいて、実測どおりの襟丈の製作可能な寸法は表2で示しているように襟丈が67cm(肩巾33.5cm、袖巾33.5cm)である。

本調査では、襟丈67cmまでの者が182名(57.8%)で6割近い者は襟丈の寸法が実測値どおりの結果となっている。しかし、一方では襟丈の長い者は襟丈が実測値通りの寸法で仕立て上げられない状況となっている。本調査では、約4割

## 浴衣地の布幅と体型・体格の相関関係についての考察

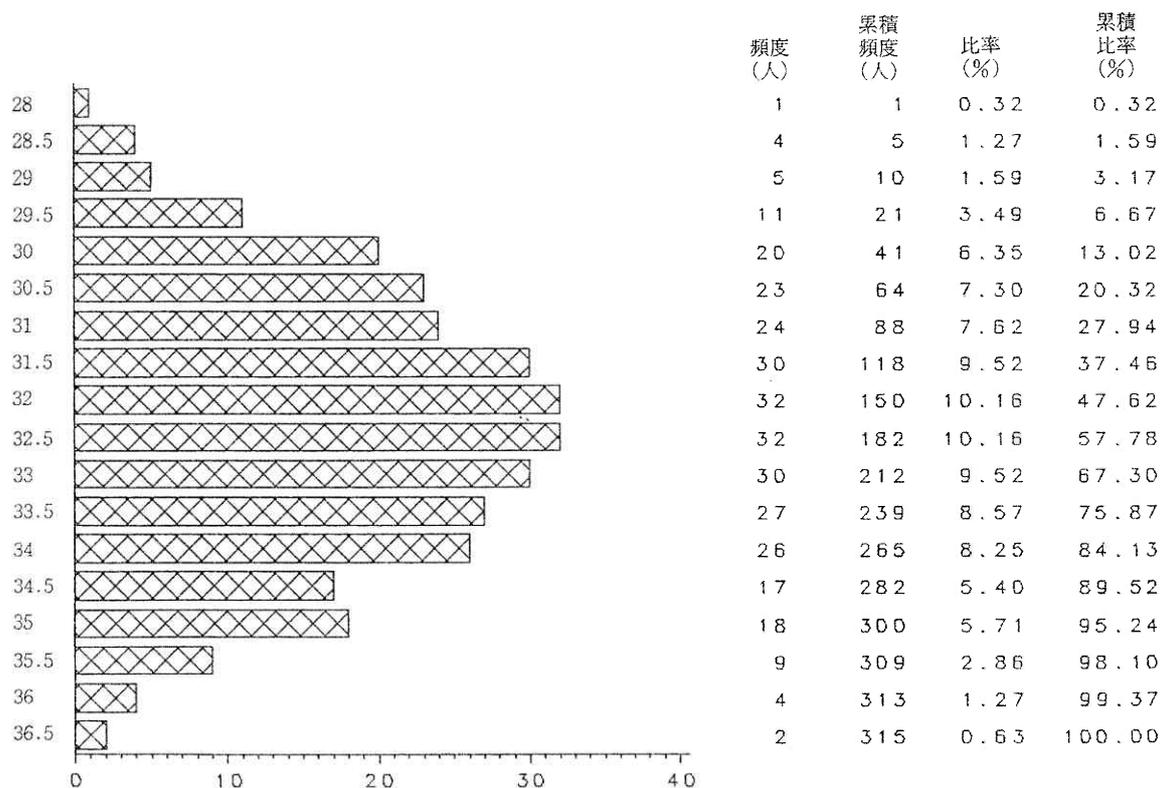


図4 肩巾の実測頻度区分

の者がこれにあてはまる。

この結果より、従来の布地の並巾36cmでは、体格の良くなった現在の女子学生において、最適な着装の衿丈が得られないことがわかった。

次に、大裁ち女物長着仕立て上げ寸法割り出し表<sup>9)</sup>(以後割り出し表という)に基づき、肩巾を算出した。

肩巾の割り出し方は衿丈 $\div 2 - 1$ cm(肩巾は衿丈から袖巾分を引いたものである。)で算出し、その結果図4にヒストグラフで示す。

図によれば、肩巾が32cmの者と肩巾が32.5cmの者が同数で32人(10.2%)と多く、ついで肩巾が31.5cmの者と肩巾が33cmの者が30人(9.5%)、肩巾が33.5cmの者が27人(8.6%)の順となっている。

つづいて算出した肩巾を基に衿丈と袖巾の寸法の割り出し表3に示す。そこで、表より、衿丈が67cmの場合についてみると、肩巾は32.5cmで袖巾は34.5cmとなり、袖巾と肩巾の差が2cmとなっている。しかし、これでは並巾36cmの場合、袖巾が34.5cmに仕上げるには最低の縫い代2.5cmが必要となり、縫い代不足のため、仕上げる事が出来ない。ゆえに、表2のように衿丈が67cmの場合についてみれば、肩巾と袖巾の寸法が同寸(33.5cm)となる。本来ならば、肩巾寸法よりも袖巾寸法の方が広く仕立て上げるのが定石とされバランスがよいとされている。だが、従来通りの布地の並巾(36cm)では衿丈が66~67cmの者において

表3 肩巾・袖巾寸法の頻度

(cm)

衿	肩巾	袖巾	袖巾と肩巾の差	人数	%
58.0	28.0	30.0	2.0	1	0.3
59.0	28.5	30.5	2.0	4	1.3
60.0	29.0	31.0	2.0	5	1.5
61.0	29.5	31.5	2.0	11	3.5
62.0	30.0	32.0	2.0	20	6.3
63.0	30.5	32.5	2.0	23	7.3
64.0	31.0	33.0	2.0	24	7.6
65.0	31.5	33.5	2.0	30	9.5
66.0	32.0	34.0	2.0	32	10.2
67.0	32.5	34.5	2.0	32	10.2
68.0	33.0	35.0	2.0	30	9.5
69.0	33.5	35.5	2.0	27	8.6
70.0	34.0	36.0	2.0	26	8.3
71.0	34.5	36.5	2.0	17	5.4
72.0	35.0	37.0	2.0	18	5.7
73.0	35.5	37.5	2.0	9	2.9
74.0	36.0	38.0	2.0	4	1.3
75.0	36.5	38.5	2.0	2	0.6
計				315	100.0

は、肩巾と袖巾のバランスのとれた寸法に仕立て上げることができないという結果となっている。本調査では、64人(20.4%)がこれにあたり、袖巾と肩巾とのバランスがとれていない結果となっている。

さらに、割り出し表を基に、後巾を算出する。

後巾の割り出し方は腰囲 $\div 4 + 6$ cmとして計算した結果を図5にヒストグラフで示す。図によれば、後巾29cmの者が102人(32.4%)と一番多く、つづいて後巾28cmの者が95人(30.2%)、後巾27cmの者と後巾30cmの者が同数で55人(17.5%)となっている。

昭和30年発行の最新裁縫要義の割り出し表<sup>10)</sup>では後巾の標準寸法は29cmとなっており、本調査の結果では3割強の者が標準寸法で着装していることがわかった。

次に算出した後巾を基に腰囲の寸法を表4に示す。

表によれば、腰囲90~93cmの者は後巾29cmになっている。この表の後巾の割り出し方は腰囲の $1/4$ に6cmのゆとり分を入れて設定している。

つぎに、これと比較のために前述の割り出し表の後巾の割り出し方について比較すると、後巾は腰囲 $\div 3$ となっている。

## 浴衣地の布幅と体型・体格の相関関係についての考察

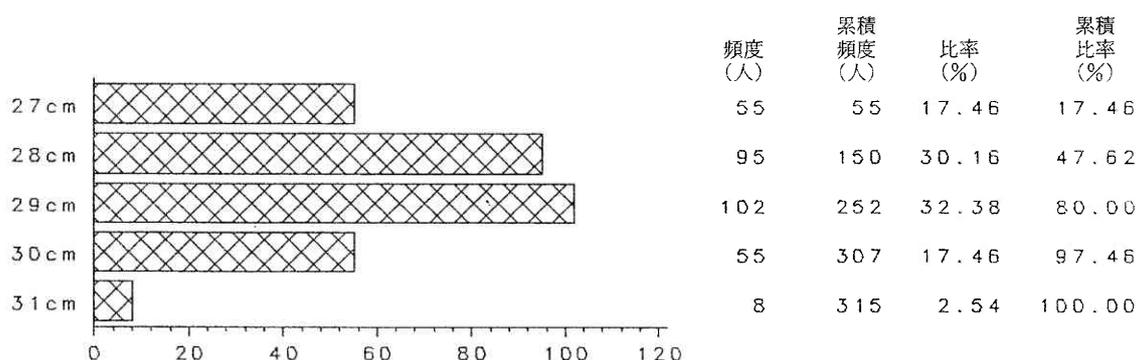


図5 後巾の実測頻度区分

表4 腰囲・後巾寸法

(cm)			
腰 囲	後巾	人数	%
～ 85.0	27.0	55	17.5
86.0～ 89.0	28.0	95	30.2
90.0～ 93.0	29.0	102	32.4
94.0～100.0	30.0	55	17.4
101.0～	31.0	8	2.5
計		315	100.0

この割り出し方では、腰囲90cmの者の後巾を計算すれば30cmとなり、今回の調査の割り出し方と1cmの差があるが、それはゆとりの差と考えられる。ゆとりは身体の動作に必要な身巾のゆりみ分と考えられる。ゆとりは着付の際に融通性にも通じるがだぶつきの原因となるものである。現在は、着装美からみると身巾にゆとりをあまり多く入れない方がよいとされる。

つぎに、割り出し表に基き、前巾を算出する。

前巾は腰囲／4 + 1cmで計算し、その結果を表5に示す。

表によれば、前巾24cmの者が102人(32.4%)と一番多く、次いで前巾23cmの者が94人(29.8%)、前巾22cmの者が56人(17.8%)、前巾25cmの者が55人(17.8%)の順となっている。

割り出し表の前巾の標準寸法は23cmとなっており、本調査では前巾24cmの者が一番多く、前巾23cmの者が2番目に多い結果となっている。

つづいて、割り出し表に基き、衽巾を算出する。衽巾は腰囲／6で計算し、その結果を表5に示す。

表によれば、衽巾15cmの者が196人(62.2%)と最も多く、次いで、衽巾14cmの者が56人(17.8%)、衽巾15.5cmの者が55人(17.5%)となっている。割り出し表の衽巾の標準寸法は15cmとなっており、本調査の結果では6割強の者が標準寸法で着装していることがわかった。

次に、和服の構成上必要な寸法であっても体型によって個人差の少ない箇所は、首つけ根まわりから割り出す衿肩明(8.5cm)、手首まわりから割り出す袖口(23cm)、身八ッ口(13～14cm)などであり採寸が省略される場合が多い。

### 3・3 クロス集計

被験者の身長と衽丈を区分化した分割表(クロス表)と $\chi^2$ 検定の結果を表6に示し、ブ

表5 腰囲・前巾・衽巾寸法

(cm)				
腰 囲	前巾	人数	%	衽巾
～ 85.0	22.0	56	17.8	14.0
86.0～ 89.0	23.0	94	29.8	15.0
90.0～ 93.0	24.0	102	32.4	15.0
94.0～100.0	25.0	55	17.5	15.5
101.0～	26.0	8	2.5	16.0
計		315	100.0	

ロック図を図6に示す。 $\chi^2$ 値は66.4(自由度6)で身長と衽の間には高度に有意(関連が強い)な依存関係のあることがわかる。つまり身長が高い者程衽丈も長くとる傾向が認められる。

この点について詳細に検討すると身長と衽の区分によって区分化(和服寸法百科の仕立て上がり寸法)したものがあるが調査の被験者の身長、衽丈の平均値および偏差はそれぞれ158.3±4.79cm、66.7±3.5cmであった。

このことから被験者の平均グループでは身長、衽ともに第2、第3カテゴリ区分に属し(太線で囲んだ部分)ていることがわかる。

つぎに、項目「衽」を軸に見れば、一番長い衽丈72cm以上の者が33人(10.5%)となっている。

朝日新聞<sup>11)</sup>によると「今夏(1995年)の浴衣は濃いめの地色や伝統的な柄が復活したようです。また、皺になりにくい新素材および身長が高く腕(衽)が長い女性に対応するために広巾の生地を使って、袖巾を長くしたオリジナル浴衣が好評である。(取意)」と報道しているように、年々向上する現代人の体型に合った布幅が要求され最近、並巾が36cm、37cm、

38cm、広いもので39cmとなっている。

しかし、男性用の和服地のキングサイズのように42cm巾のものは女性用にはまだ生産されていないようであるが、仕立て上がり浴衣においてはオリジナルの広巾の布地を使って製作されている。

今回の調査においても、並巾36cmの場合、身長の高い者と身長の普通の者で衽丈68cm以上の者の約4割の者が実測値どおりの衽丈寸法に仕立て上げられない状況であったが、布地が並巾39cmまでになると282人(89.5%)が各自の適切な衽丈を確保することが出来る。

しかし、本調査の被験者で衽丈

表6 身長区分と衽区分の分割表

FREQUENCY !	PERCENT !	ROW PCT !	COL PCT !	TOTAL
151以下!	152	159	160以上!	
63 !	15 !	40 !	9 !	64
以下 !	4.76 !	12.70 !	2.86 !	20.32
下 !	23.44 !	62.50 !	14.06 !	
	51.72 !	26.85 !	6.57 !	
64 !	13 !	61 !	44 !	118
} !	4.13 !	19.37 !	13.97 !	37.46
67 !	11.02 !	51.69 !	37.29 !	
	44.83 !	40.94 !	32.12 !	
68 !	1 !	43 !	56 !	100
} !	0.32 !	13.65 !	17.78 !	31.75
71 !	1.00 !	43.00 !	56.00 !	
	3.45 !	28.86 !	40.88 !	
72 !	0 !	5 !	28 !	33
以 !	0.00 !	1.59 !	8.89 !	10.48
上 !	0.00 !	15.15 !	84.85 !	
	0.00 !	3.36 !	20.44 !	
TOTAL	29	149	137	315
	9.21	47.30	43.49	100.00

STATISTICS FOR TABLE OF YUKIG BY HEIG

STATISTIC	DF	VALUE	PROB
CHI-SQUARE	6	66.425	0.000
LIKELIHOOD RATIO CHI-SQUARE	6	73.671	0.000
MANTEL-HAENSZEL CHI-SQUARE	1	62.296	0.000
PHI COEFFICIENT		0.459	
CONTINGENCY COEFFICIENT		0.417	
CRAMER'S V		0.325	

SAMPLE SIZE = 315

浴衣地の布幅と体型・体格の相関関係についての考察

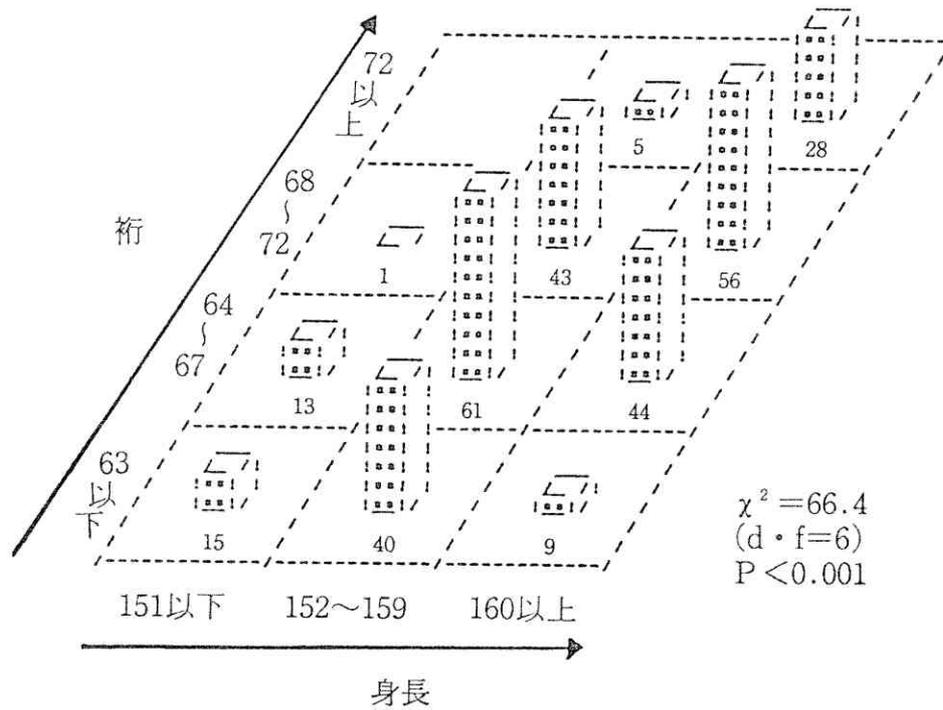


図6 身長区分×衿区分

の72cm以上の者が33人(10.5%)あったが、これらの者は実測値どおりの衿丈に仕立て上げられない状況となっていることは問題である。

更に身長と衿の回帰直線と信頼限界(90%)を図7に表す。

身長と衿の相関は、極めて高い関連性がみられる。すなわち、身長が高くなるほど衿も長くなる傾向を示す。

また、回帰傾向を見るために次の重回帰式

$$\hat{y}_{uki} = a \cdot \text{身長} + b \cdot \text{腰囲} + c \cdot \text{胸囲} + i + e$$

a、b、c：係数      i：切片      e：誤差項

を解くと表7に示すように、 $\hat{y}_{uki} = 0.399 \cdot \text{身長} - 0.05 \cdot \text{腰囲} - 0.02 \cdot \text{胸囲} + 9.64$ となった。つまり衿丈の予測に腰囲、胸囲は重回帰式の回帰係数を見る限り寄与(直線関係において)していないことがわかる。このことは次に示す「採寸測定値間の相関行列」からも明らかである。

採寸測定値間の相関行列を表8に示す。

身長と最も相関係数が高いのは衿丈との0.519であった。

寄与率( $r^2$ )は0.27 rである。衿丈と採寸測定値との相関が認められたのは身長のみで腰囲と胸囲とは無相関であった。採寸測定値間では胸囲と腰囲が0.538と正の相関関係を示した。これは体位間の一般的な関係からみて首肯できることである。

被験者の肩巾と後巾を区分化した分割表(クロス表)と $\chi^2$ 検定の結果を表9に示す。

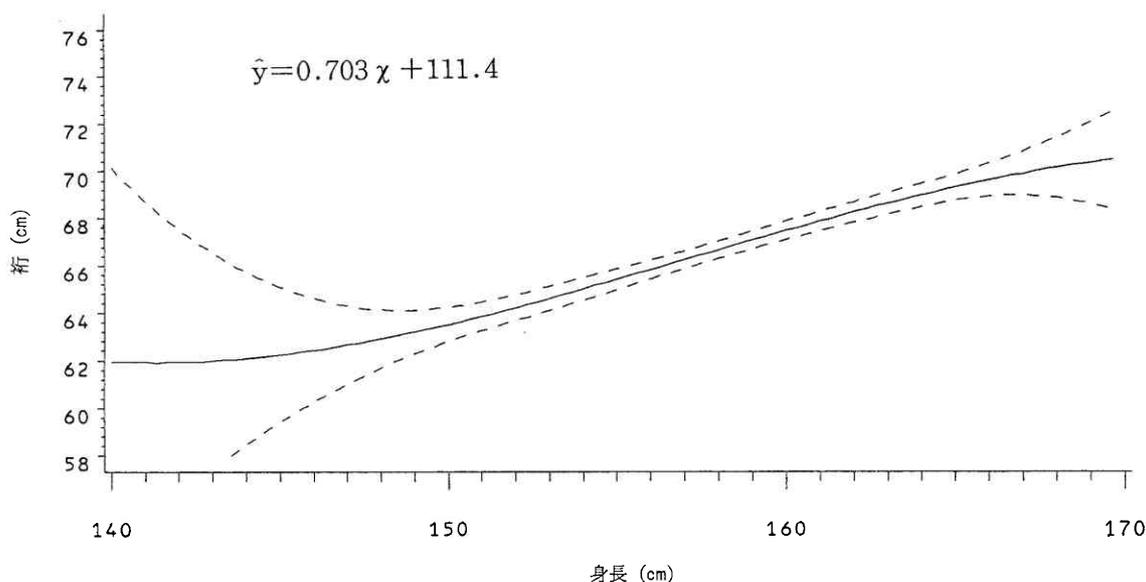


図7 身長と衿の回帰直線と信頼限界（90%）

表7

PARAMETER	ESTIMATE	T FOR H0: PARAMETER=0	PR >  T	STD ERROR OF ESTIMATE
INTERCEPT	9.643819402	1.55	0.1221	6.22079247
HEIGHT	0.399068394	10.82	0.0001	0.03688654
HIP	-0.051398407	-1.16	0.2469	0.04430075
BUST	-0.017899367	-0.38	0.7045	0.04714616

$\chi^2$  値は28.1(自由度14)で肩巾と後巾の間には5%レベルの有意な差が認められた。

「肩巾」と「後巾」をクロスさせて作成したブロック図を図8に示す。

図によれば、「肩巾」が32cmで後巾(28~29cm)の者が46人(14.6%)と一番多く、次いで「肩巾」が33cmで後巾(28~29cm)の者が35人(11.1%)となり、さらに「肩巾」が34cmで後巾(28~29cm)の者が29人(9.2%)、「肩巾」が35cmで後巾(28~29cm)の者が27人(8.6%)の順になっている。

なお、浴衣を構成するにあたり肩巾は後巾とのバランスが重要である。これは肩巾と後巾の差が増すことによって、袖付の分量が不均一になると脇縫しろのつれなど構成上の問題がおこる。また、着装上では胸巾や背巾が広くなりすぎて身体に合いにくく着くずれをおこす原因となる。

それを防ぐには、肩巾と後巾の寸法を同寸あるいは差は大体2.5cmぐらいまでが理想的とされる。

今回の調査結果から、一番多い組合わせの者の肩巾と後巾の差は3~4cmとなっており、理想通りの寸法は得られないことがわかる。

さらに被験者全体をみれば、肩巾と後巾の差が2.5cm以上の者が210人(66.7%)となって

## 浴衣地の布幅と体型・体格の相関関係についての考察

表8 採寸測定値間の相関行列

項目	身長	腰囲	胸囲	衿
身長	1.00	_____	_____	_____
腰囲	0.256 0.000***	1.00	_____	_____
胸囲	0.142 0.012*	0.538 0.000***	1.00	_____
衿	0.519 0.000***	0.059 0.300	0.018 0.747	1.00

(注) 数値の上段はピアソンの相関係数をあらわし下段の数値は無相関検定の確率水準をあらわす。\*印はそれぞれ

\*\*\*:0.1%、\*\*:1%、\*:5%レベルをあらわす。

表9 肩巾と後巾区分の分割表

FREQUENCY !	PERCENT !	ROW PCT !	COL PCT !	29 !	30 !	31 !	32 !	33 !	34 !	35 !	36 !	TOTAL
27	1	3	5	5	13	7	0	1				35
	0.32	0.95	1.59	1.59	4.13	2.22	0.00	0.32				11.11
	2.86	8.57	14.29	14.29	37.14	20.00	0.00	2.86				
	10.00	9.68	10.64	8.06	20.97	13.21	0.00	6.67				
28-29	7	24	23	46	35	29	27	7				198
	2.22	7.62	7.30	14.60	11.11	9.21	8.57	2.22				62.86
	3.54	12.12	11.62	23.23	17.68	14.65	13.64	3.54				
	70.00	77.42	48.94	74.19	56.45	54.72	77.14	46.67				
30-31	2	4	19	11	14	17	8	7				82
	0.63	1.27	6.03	3.49	4.44	5.40	2.54	2.22				26.03
	2.44	4.88	23.17	13.41	17.07	20.73	9.76	8.54				
	20.00	12.90	40.43	17.74	22.58	32.08	22.86	46.67				
TOTAL	10	31	47	62	62	53	35	15				315
	3.17	9.84	14.92	19.68	19.68	16.83	11.11	4.76				100.00

STATISTICS FOR TABLE OF BACKG BY KATAG

STATISTIC	DF	VALUE	PROB
CHI-SQUARE	14	28.137	0.014
LIKELIHOOD RATIO CHI-SQUARE	14	30.628	0.006
MANTEL-HAENSZEL CHI-SQUARE	1	1.304	0.253
PHI COEFFICIENT		0.299	
CONTINGENCY COEFFICIENT		0.286	
CRAMER'S V		0.211	

いる。

それは、通常、和服地の布幅が並巾36cmと決められていたが、現在並巾も36~39cmと広くなり、袖巾を広くすることにより肩巾と後巾の差が小さくなり、構成上の問題が多少解消されつつある。

以上のことにより、衿丈が長い場合は肩巾と後巾の差を2.5cmぐらいを基準とし、袖巾を広く仕立てるのが適切である。

そこで、今回の調査寸法の結果から肩巾を基にして布幅(並巾=36・37・38・39cm)に合っ

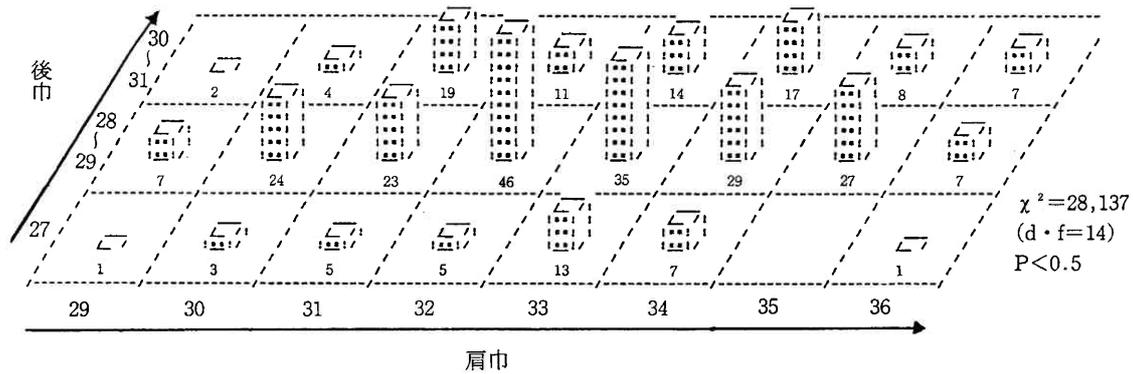


図8 肩巾と後巾区分のブロック図

表10 布幅に合った衿丈(肩巾と袖巾)の寸法割り出し表

衿	肩巾	袖巾	袖巾と肩巾の差	人	(%)	布幅
58	28	30	2	1	0.3	並巾36cm
59	28.5	30.5	2	4	1.3	
60	29	31	2	5	1.5	
61	29.5	31.5	2	11	3.5	
62	30	32	2	20	6.3	
63	30.5	32.5	2	23	7.3	
64	31	33	2	24	7.6	
65	31.5	33.5	2	30	9.5	並巾37cm
66	31.5	34.5	3	32	10.2	
67	32.5	34.5	2	32	10.2	並巾38cm
68	32.5	35.5	3	30	9.5	
69	32.5	36.5	4	27	8.6	並巾39cm
70	33.5	36.5	3	26	8.3	
71	34.5	36.5	2	26	5.4	
72	34.5	37.5	3	18	5.7	並巾40cm
73	34.5	38.5	4	9	2.9	
74	34.5	39.5	5	4	1.3	並巾41cm
75	35.5	39.5	4	2	0.6	
						並巾42cm

た衿の寸法と袖巾を表10に示す。

表によれば、布幅と衿丈の関係は、並巾36cmでは衿丈58～65cmまで(肩巾28～31.5cm)、次に並巾37cmでは衿丈66～67cmまで(肩巾31.5～32.5cm)、並巾38cmでは衿丈68cmまで(肩巾32.5cm)、さらに並巾39cmでは衿丈69～71cmまで(肩巾32.5～34.5cm)が市販されている布幅で仕上げられ、その人の体型・体格にあった寸法が得られることがわかる。

しかし、現在では並巾40cmでは衿丈72cm、並巾41cmでは衿丈73cm、並巾42cmでは衿丈74～75cm以上の布幅がまだ市販されていないので衿丈が実測値どおりの寸法で仕立て上げられない状況となっている。

和服には昔から伝承されてきた標準寸法があり、それを基にして製作されていたのであるが最近、若い世代のめざましい体格、体型の向上で和服は標準寸法が見なおされる時期であることが本調査結果でも明らかになった。

このような現状を勘案して今後は和服を着用する者の体型・体格にあった最適な布幅(並巾=36・37・38・39cm)の寸法によって割り出した和服製作が切に望まれる。

## 浴衣地の布幅と体型・体格の相関関係についての考察

## まとめ

和服には、昔から伝承されてきた標準寸法があり、それを基にして製作されていたが、めざましい体格、体型の向上で和服を着装した時、最近の若い人達の体格、体型に適応できない現状になっている。そのような体格・体型は、背が高く腕が長い女性や細身の体型の女性などがこれにあてはまる。そこで、浴衣を美しく着心地よく着るためには、着用する人の体型・体格にあった寸法が重要である。体型・体格にあった浴衣を製作するには、浴衣地の布幅との関係が重要である。そこで、浴衣寸法を決める基になる身長、衿、腰囲を採寸し、丈寸法、巾寸法を割り出し、浴衣地に合った布幅(並巾=36・37・38・39cm)との相関関係を被服構成上から検討を行った。

1. 身長・衿・胸囲・腰囲を採寸し、平均値・偏差値等を算出する。

本調査では、身長は158.3cm、衿は66.7cm、胸囲は82.9cm、腰囲は89.5cmであり身長と胸囲の値は全国の同年齢の平均値と等しいことがわかった。

2. 衿丈については、64～67cmの者が118人(37.5%)と最も多く、次いで衿丈68～71cmの者が100人(31.8%)となった。

通常の浴衣地(並巾36cm、総丈約11～12m)では、本調査で68cm以上の133人(42.2%)の者が衿丈が実測値より短く製作せざるを得ないことが分かった。

3. 肩巾については、32cmの者と32.5cmの者が同数で32人(10.2%)と多かった。

通常の浴衣地(並巾36cm、総丈約11～12m)においては、肩巾寸法より袖巾寸法の方が広く仕立て上げるのが定石とされバランスがよいとされているが、今回の被験者の衿丈が66～67cmの約2割の者においては、袖巾と肩巾とのバランスの取れない状態で着用していることが判った。

4. 後巾については、標準寸法である29cmの者が102人(32.4%)と多かった。

5. 身長と衿を区分した分割表によれば身長と衿の間には高度に有意(関連が強い)な相関関係のあることがわかった。

「衿」と「身長」とのクロス表分析結果では、身長は普通(152～159cm)で衿(64～67cm)の者が61人(19.4%)の組み合わせが一番多く出現した。通常の並巾36cmの場合、今回の被験者における身長の高い者と普通の者で衿丈68cm以上の者の4割の者は衿丈が実測値どおり製作出来なかったが、布地が並巾39cmまでになると282人(89.5%)の者は衿丈が実測値どおり製作出来ることがわかった。

しかし、衿丈72cm以上の33人(10.5%)の者は実測値どおり製作出来ない結果となった。

6. 「肩巾」と「後巾」とのクロス表分析結果では、肩巾が32cmで後巾(28～29cm)の者が46人(14.6%)の組み合わせが一番多く出現した。

肩巾と後巾の寸法は同寸あるいは差は大体2.5cmぐらいが理想の寸法とされている

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第15号（1995年）

が、通常の並巾36cm布幅では、今回の調査で210人(66.7%)の者が理想通りの寸法が得ることが出来なかった。しかし、布地が並巾39cmまでになると肩巾と後巾との差を2.5cmにして袖巾に寸法を入れると並巾36cmでは衿丈58～65cmまで(肩巾28～31.5cm)、並巾37cmでは衿丈66～67cmまで(肩巾31.5～32.5cm)、並巾38cmでは衿丈68cmまで(肩巾32.5cm)、並巾39cmでは衿丈69～71cmまで(肩巾32.5～34.5cm)が市販されている布幅で衿丈寸法を仕上げられることがわかった。

しかし、男性用の和服地のキングサイズのように42cm巾のものは女性用にまだ生産されていないために、今回の調査で衿丈72～75cmの者は実測どおりの寸法で製作出来ない状況となった。

以上のことにより、体型・体格に即した浴衣を製作するには、着る人の体型・体格にあった布幅(並巾=36・37・38・39)との関連性が重要であるという結果が得られた。

#### 引用文献

- 1)北村哲郎：ゆかた、衣生活研究、7(1969)
- 2)丹野郁：総合服飾史事典、雄山閣出版株式会社(1980)
- 3)朝日新聞、1994. 5. 18、夕刊
- 4)増田依子他：大裁女物長着の衿寸法、大阪女子学園短期大学紀要、38(1994)
- 5)文部省：体力・運動能力調査報告書の年次統計表、1992年
- 6)朝日新聞、1995. 4. 27、朝刊
- 7)横山千年枝：和服寸法百科、ふたば書房(1994)
- 8)水梨サワ子：被服構成学、朝倉生活シリーズ
- 9)岡村キミノ、青海邦子他：新しい和裁大手前女子短期大学ノート、新明公社(1986)
- 10)米沢光：最新裁縫要義(上巻)、奈良女子高等師範学校裁縫研究会、東洋図書(1955)
- 11)朝日新聞、1995. 6. 26、朝刊